鳥海讃歌

ＧＴＨ通信　第５２号　令和３年１０月１日（金）
校長室より

「胸中成竹」を合い言葉に！

仁開機イ１仁意　し事状　本高催会ル２高識令てを況　日祭。にス月祭し和、実に　金）、仁しり的どえの優校ま　日年かし延・し営、心賀さ　１元開ま蔓的催運は安仁と　月和にれ症育開事度・、う　０令域ま染体を行年全しそ　１。地恵感に」た３安施戻　は仁賀か学要う、気先のな　ロ初校昨事取ばしやで活を　コ祭高、行をれ践ち、育夫　ナのを年がりでま心き動し　催ほルロい「？」を　開か一コなたか。をり常ま　すっすナ中2020　るとるウで、切校近た。　「　に行い。

成しめ高本　中まじ仁基　胸えか、に　「考らは常　、りあ」、　マく、とも　一っにこて　テじ時くい。　祭、るお於すに　高かめてにで」　仁何始え活ド訓チ２人の現てのけこ愛確軸て重ど祭は第　のはを整生一校の、、ス表し）助起友でをし、り「で、　年ろ事をのワ「新」てラと待Ｐのに「上考現て拠の校ね、　今こ物備後一る知立いク念期Ｈ他中、Ｐ思表しのく高重　んとる準今キた故自つ各理を（「の」Ｈのを化心多保を　さるゆて、な心温「に、くとジは心と。り法確、賀善　なすらけず敵核には」つづこ一」「こすと用明はす仁改　み図あつら素の生生愛つとるペ立はつまひ活がで示、と　、意「をまき」高年友しもなム自」勝い人と味中をが夫　てが。し留べ祭仁１「ににに一「己ちて一釈意の等す工　さ」う通にす「、。は礎考ンホ。克打れ徒解つ世謝で、

画ま年をなシ　企れ３問的一　るく、学創レ　えて」の独コ　考え己高、デ　て与克仁けた　いを「とかし。　ツスは験を使す。　校配動「たクさ深に中を回　学支衝はし、だとろが約２　訓人の人を結組をやさ生で　校一志友義をりと命く、施　、分意は定知取こ生なて実　に自をたな叡のすた儀えが　」に望ま的のこ増き余越祭　報し欲弟般ス。がてをり高　情な、兄一ラいみし止乗仁　説力にのましを待然てとる　明でよ情えた通しへい教幸　記事て・、唆てす畏す員を　載をお友各に、敬。こ手じ　さ行さ情ク富「校訓」ラん校　れうえ」とスだ訓　てこ、とは校　いと自定は校　ま」、分義、訓の

ま」、分義、訓の　いと自定は校　てこ、とスだ訓　れうえ」ラん校　さ行さ情ク富「校訓」　載をお友各に、敬。こ手じ　記事て・、唆てす畏す員を　明でよ情えた通しへい教幸　説力にのましを待然てとる　のの力間踏集み期自れ徒き　訓人の人を結組をやさ生で　校一志友義をりと命く、施　、分意は定知取こ生なて実　に自をたな叡のすた儀えが　」に望ま的のこ増き余越祭　報し欲弟般ス。がてをり高　情な、兄一ラいみし止乗仁　校配動「たクさ深に中を回　学支衝はし、だとろが約２　訓人の人を結組をやさ生で　校一志友義をりと命く、施　、分意は定知取こ生なて実　が物っ愛て示しまのま職福　記事て・、唆てす畏す員を　載をお友各に、敬。こ手じ　さ行さ情ク富「校訓」ラん校　れうえ」とスだ訓　てこ、とは校　いと自定は校　ま」、分義、訓の

の況あ　へ状りま　者な取い　他んをて　が感　員を　職福　教幸　待然てとる　期自れ徒き　集み　組をやさ生で　結　人の　訓　校一志友義をりと命く、施　、分意は定知取こ生なて実　に自をたな叡のすた儀えが　」に望ま的のこ増き余越祭　報し欲弟般ス。がてをり高　情な、兄一ラいみし止乗仁　説力にのましを待然てとる　明でよ情えた通しへい教幸　記事て・、唆てす畏す員を　載をお友各に、敬。こ手じ　さ行さ情ク富「校訓」ラん校　れうえ」とスだ訓　てこ、とは校　いと自定は校　ま」、分義、訓の

す。

竹ょ見祭と　はす生基思ョ　す「にさ生の持　感下い　歴催なポき今で望　開しのだ　揮希　史さがス、日きを　振ま、一輩こ貴せ　をれらタ先こる託　返た統掲の、な「　りし伝を方に重る　ると、の々ま望年がに　1979（昭和54）年９月に、現っスさ　後とすと月得仕　生けテい経れげ　年意今帆しい感と　月をにとくきし　に具至ポだた、第願　栄化てタい。　えすい一　あるまデ　る催す。イ　第し　回企こを　１をコン　回仁画に御覧　高祭展１い　祭が示回た

歴催なポき今で望　開しのだ　揮希　史さがス、日きを　振ま、一輩こ貴せ　をれらタ先こる託　返た統掲の、な「　りし伝を方に重る　ると、の々ま望年がに　1979（昭和54）年９月に、現っスさ　後とすと月得仕　生けテい経れげ　年意今帆しい感と　月をにとくきし　に具至ポだた、第願　栄化てタい。　えすい一　あるまデ　る催す。イ　第し　回企こを　１をコン　回仁画に御覧　高祭展１い　祭が示回た

発に　を　気　意　心　の　高生　仁　高　回　おり　ます。　３　２　て　っ　ら　願　来　未　を　祭　を、

★　アイコンタクト（ｉｃｏｎ ｔ ａｃｔ３）を心がけてください。目と目で通じ合い、face to face で向き合いながら、「考えながら行動する」笑顔の素敵な人間たれ！
★　メモをとる習慣を確立しましょう。生徒手帳をフル活用してください。メモをとる習慣は、将来必ず役に立ちます。
★　意識力＝意思・意志（瞬間）＋気力（持続）です。意識力を育成することで、学ぶ力が増幅します。考えたことを継続してやり抜きましょう。
★　ＧＴＨは、「疑問→探究→発見」という学びの方程式です。
★　「自己有用感」を高めてください。そのためにあなたは何に挑戦しますか？
　自分が誰かの役に立ったことが大切です！感謝の心と自己肯定感を持つ高校生の仲間になりましょう。
★　ＮＰＴは仁高プログラミング思考の略称です。ＮＰＴを意識して、学びを活性化しましょう。プログラミングは、Trial＆Errorで進めましょう！
★　「自分事」「当事者意識」を持って取り組む仁高生に変身しましょう！